2023年度2学期面接授業

「心理検査法基礎実習」K レポート用紙①

学生番号　　　211-003199-6　　　　　氏名　　　　牛根　嘉孝　　　　.

検査名：　TEG3 ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：　2023年11月11日（土）13:49～　所要時間：5分

・検査実施時の様子：　実施前の様子は、13時に食事を摂ったあと、午前中の講義の疲労感に対ししっかり

休憩を取っていた。また、姿勢よくペンをとっていた。実施中は、先生が何か言われていたが、飛行機の音で

聞こえなかったのか、周囲を見渡す様子が見られた。実施後、プロフィールを予想する講義場面があったが、

その前にプロフィール結果を出してしまっていた。

・主な結果：　CP＝12、NP＝12、A＝18、FC＝8、AC＝14、L=0、Q=0が明らかになり、プロフィールの型はＡ優

位であった。また、全体的なプロフィールの位置は高めであった。加えて、妥当性が高いことも分かった。

・所見：　検査の前にしっかりと休憩をとっていた点に加え、Ａ優位の結果が導き出されたことから、能率性、

生産性の高さが示された。一方、やや能率的すぎるためか、時には早合点の傾向となることも暗示された。

検査名：　BDI-Ⅱ ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：2023年11月11日（土）　14:50～　所要時間：4分

・検査実施時の様子：　実施前は、目をしばしばさせ表紙を見ていた。実施中、先生の説明があるとペンを止

めてしっかり聞く様子が見られたが、表情はややぼーっとしている様に感じられた。実施後、腕を組んで休ん

でいる一方、BD-Ⅱの講義資料を先読みしていた。他方、自殺念慮の項目は0点であった。

・主な結果：　BDI-Ⅱ=6点が明らかになり、０-13点範囲内であることから、極軽症が示された。また、選

ばれた項目は、悲しさ、悲観、被罰感、激越、活力喪失、疲労感であるが、得点はすべて1点であった。

・所見：　確かに、目をしばしばさせたり、ややぼーっとした様子や、腕を組んで休む様子がみられる。しか

し、BDI-Ⅱ=6点（極軽症）であること、講義後半であること、食後2時間であることから、抑うつというよ

りは、誰にでもある一時的な眠気があったと思われる。一方、選択された項目に悲しさがあることは明確であ

る。したがって、何か悲しいことがあったのか等、丁重に聞いてみることも検討する余地があるだろう。

検査名：　バウムテスト 二枚法 （1枚目：枠なし、 2枚目：枠あり）＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

 検査年月日：　2023年11月11日（土）15:50～　　所要時間：9分

・検査実施時の様子

実施前、放送大学の教材である心理的アセスメント（'20）のp.51をさらっと読んでおく様子がみられた。

実施中、まず、木の幹から書き始め、ささっと書いたかと思うとすぐ消した。つぎに、幹をよりハの字に書き、

遠近がはっきり分かるように書き直した。その後、枝、葉、実、根の順で書き、葉と実を付け加えた。一方、

枠ありでは、枝、幹、根、葉、実の順で書き、途中で付け加えることはなかった。実施後、本人に直接聞いた

わけではないが、1枚目（枠なし）に比べ、2枚目（枠あり）ではやや満足そうな表情に感じられた。

・主な結果

　紙面いっぱいに描いた窮屈そうな樹幹に対して、根から地面は６ｃｍほどの余裕があった。また、根は太く、

幹は広葉樹のような複雑な陰影があり、境界線はハの字で明確に描画されていた。さらに、幹から枝にかけて

は2本線であるものの繊細につなぎ合わせており、本物のように全方位に描かれ、すべて10°~90°の上方

向に向いていたうえ、約35本の枝の先端はすべて閉鎖していた。加えて、やや鋭利な葉は、すべての枝の先

端に集合体で描かれ、その中にマルベリーのような黒くて小さな実がバランスよく大量に散在していた。一

方、2枚目（枠あり）も同じ種類の木が描かれていたが、明確な点は、幹の中にも枝葉が描かれ、その左側に

は出っ張ったウロが木の高さの中央部分に見られた。また、さらに左側には2本の枝葉が左45°下方向に向

いていた。他方、強調された点は、樹幹がより大きく窮屈になり、枠と接触していたうえ、根もより太くなり

根から地面は2cmと狭まった。また、幹の陰影も濃くなり、枝の先端の数も約50本に増えていた。

・所見

1枚目（枠なし）では木が上バランスに描かれているが、空間象徴的にとらえるならば、理性的なパーソナ

リティであることが暗示される。また、幹の陰影や、細かな枝分かれを病的現象の理解としてとらえるならば、

丁寧であり、やや神経質である可能性も考えられる。一方、2枚目（枠あり）では、左側のウロが注目される

が、ヴィトゲンシュタイン指数によると、18歳前後の外傷体験が推測されるという考え方もある。また、空

間象徴的理解にもとづくと、過去の内省的な出来事ととらえる方法もある。さらに、ウロのさらに左側にある

2本の枝葉が左45°下方向に向いているが、気分が落ち込むような出来事であったのだろうと仄めかされる。

加えて、2枚目（枠あり）では、さらに樹幹が大きくなり、枠と接触している。したがって、枠にはめると、

過去の外傷体験を思い出し、神経質になる一方、昇華して対処しようとする傾向があることが仄めかされる。

2023年度2学期面接授業

「心理検査法基礎実習」K レポート用紙②

学生番号　　　211-003199-6　　　　　氏名　　　　牛根　嘉孝　　　　.

検査名：　YG性格検査 ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：　2023年11月12日（日）9:55～　　所要時間：15分

・検査実施時の様子

実施前、他の検査者より少し時間がたって練習を開始した。一度書いてしまえば、さらさらと書き終えた。

実施中、1項目7秒程度で一定して〇つけし、全項目スピードはほとんど変わらなかった。また、〇は線にな

ぞって正確に書かれていた。実施後、YG性格検査の説明を読んでいたが、難しそうな表情であった。

・主な結果

・所見

・総合所見